

宝塚市の環境推進事業

和田秀彰*

1. はじめに

宝塚市は、武庫川中流域に位置し、人口 22 万 8 千人を擁する住宅都市として発展した。瀬戸内特有の、温暖・小雨の気候と言える。ここ数年の年平均気温は、15～16℃、雨量は 1,400～1,500mm で推移している。市街地は市域南部の 3 分の 1 であり、残りは、長尾山以北の山地と農村が占める。人口は、南部市街地で 98% 以上占めている。

古地図によると、武庫川は、流れを変えながら暴れ川として大阪湾に注いでいたが、昭和初期に改修、整備され現在に至っている。

2. 武庫川の水質改善

本市の中央を南北に流れる武庫川は、かつては、水泳をしたと古老が語るほど水がきれい、伊子志（いそし）には、渡しがあつたと聞く。しかし、都市化が進行し、人口が増加する昭和 40 年代には、武庫川に流入する支川において水質汚濁が進行し、生活排水対策が急務となった。

平成 2 年度に、平成 13 年度に生活排水 99% を処理することを目標とした「生活排水処理計画」を策定し、下水道整備を推進した。

その結果、昭和 50 年から平成 24 年までの間、下水道が 2% から 99% と普及したのに伴い、武庫川本流の宝塚新大橋及び逆瀬川の水質 (BOD 年間平均) は、4.5mg/L および 9.5mg/L から、1.5mg/L および 0.5mg/L と改善した。

一方、河川の水質改善は進んだが、降水量の少ない時期には、河川を維持するための水量が不足するところが目立つようになった。

3. 生物多様性たからづか戦略の策定

平成 12 年度、生態系レッドデータブックを策定し、10 年が経過したこと、生物多様性基本法が制定されたことなどをを受け、平成 23 年度に、生物多様性たからづか戦略を策定した。

また、戦略に基づき、平成 24 年度には、ブラックリスト、レッドリストの選定とシンボル生物の選考、平成 25 年度には、生物多様性配慮ガイドブック等を作成した (図 1)。

この生物多様性ガイドブックは、生物の多様性につ



図 1 宝塚市生物多様性ガイドブック

いて配慮すべき行動指針として、市民、事業者、行政各主体が取り組むことを盛り込んでおり、啓発に活用している。

平成 26 年度には、西谷地区の位置する、県下有数の丸山湿原群が市天然記念物に指定され、記念セミナーを開催した。今後、県天然記念物に指定される予定である。

4. 市街地の近くでゲンジボタルが

本市では、平成 4 年度に逆瀬川の上流にある内畑緑地に、ゲンジボタル飼育施設「ピカピカランド」を設置した (図 2)。現在は、環境活動団体の「宝塚エコ



図 2 ホタル飼育施設 (ピカピカランド)

*宝塚市環境部環境室 環境政策課 Hideaki WADA



図3 ECO 講座（松尾湿原にて）

ネット」により管理されており、近隣の西山小学校など児童の環境学習の場となっている。宝塚エコネットでは、毎年児童による幼虫の放流や、市民を対象とした観察会を開催し、多くの来場者を得ている。

また、毎年6月上旬に宝塚ゴルフ倶楽部と共催で、逆瀬川上流で、ホテル観賞会を開催している。ゲンジボタルの生息環境を整えるため、日当たりをよくするなど、同倶楽部の手も入り、良好な環境が維持されている。市街地に近い場所でホテルが見られることから、二日間で2,500人もの参加がある。日暮とともにホテルが舞い始め、毎年来られる参加者からは、「今年は飛んでいる数が多くてきれいだった。」との声も聞かれる。

5. 環境市民力の向上

より多くの市民の方に環境活動に参画していただくことと、環境リーダーを育てることを目的に、市内の環境団体や事業者等で組織する「環境都市宝塚推進市民会議」と共催で、環境学習リーダー入門講座を開催し、16年が経過した。受講修了者の中で、「宝塚エコネット」、「環学会」という環境団体を立ち上げて、市と協働で活動を行っている。平成26年度から、地球温暖化、自然、景観、循環といった内容は従前のまま、冠



図4 市民環境フォーラム（子ども環境会議）

をECO講座と改め、座学や実際の環境保全活動を含む12講座を組んで、実施した。

その中で、武庫川や生態系、自然を対象としたのは5講座を占め、受講者は座学や里山の保全管理作業を体験した（図3）。

6. 環境団体との協働・連携

平成8年、市内の環境団体や事業者、NPO等20団体から成る「環境都市宝塚推進市民会議」が発足し、市と連携を図りながら、毎年、ECO講座、環境パネル展、市民環境フォーラム等を実施している（図4）。

これらの事業は、実績を重ねてきているところであり、より一層の充実が期待される。

7. おわりに

環境施策を推進し、事業を実施するには、行政だけで行うのではなく、広く市民、団体の皆さんと協働・連携を図りながら行うことが必要である。

幸いなことに、本市には、数多くの環境団体があり、活発な活動が行われている。

それぞれの団体が情報共有し相互に連携しあい、行政もその中に位置するような場作りが必要である。

まだ十分に場作りが出来ていないが、武庫川市民学会や武庫川流域圏ネットワークの皆さんとの連携も考えながら今後の施策展開を図りたい。